

## V 日高振興局

### 1. 重点プロジェクト【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

#### ～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～

クビアカツヤカミキリは、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木を内部から食い荒らし枯死させる特定外来生物である。2019年11月にかつらぎ町、2020年5月に岩出市で本虫による被害が確認され、日高地方への被害拡大が懸念されている。

5月25日～6月4日、日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）は、クビアカツヤカミキリの侵入警戒と蔓延防止のため、日高全域のサクラ樹植栽地85か所（計2,812本）を巡回調査した。

サクラ樹の主幹根元から4mの位置まで、1樹ずつ調査を行ったが、クビアカツヤカミキリのフラス（虫の排泄物と木くずが混ざったもの）等の発生は確認されなかった。

また、ウメ園での発生状況調査として、日高果樹技術者協議会によるウメ着果調査（4月下旬、5月中旬の2回、148園）と併せてクビアカツヤカミキリを調査したが、発生は確認されていない。

今後も、継続的にサクラ樹植栽地やウメ園の巡回調査を行うとともに、各市町やJAの広報紙の活用や防除啓発チラシの配布等により、生産者はもちろんのこと、一般住民への啓発を行っていく。



クビアカツヤカミキリのフラス発生状況等を調査（由良町、御坊市）